

記録集の発行にあたって

令和元年6月18日（火）22時22分に発生した山形県沖地震から1年が経ちました。鶴岡市では県内観測史上最大となる震度6弱を観測し、家屋の瓦屋根や、公共施設、酒蔵など幅広い分野で被害が発生しました。改めて、被害にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げます。

発災に際し、国・県はもとより、自主防災会や災害協定を締結している団体・企業、市内外のボランティアの皆様からお力添えをいただくとともに、多くの個人、団体、企業等の皆様から見舞金、支援物資の提供を賜りました。また、罹災証明の発行に際しては、全国市長会会長の立谷秀清相馬市長のご指導の下に、東北市長会、山形県市長会の連携・協力に山形県を加えた体制により、発行に向けた調査を実施することができました。一早く現場に職員を派遣いただいた熊本県熊本市や大阪府枚方市、友好都市・姉妹都市である東京都江戸川区、北海道名寄市、木古内町をはじめ、県内外から多くの人的支援をいただきました。地震からの復旧にご尽力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

地震発生直後から、市災害対策本部を中心に、避難者支援、復旧対応を進めて参りましたが、住民説明会やアンケートなどを通じ、改善が必要な課題が挙げられております。今後もいつ、どこで発生するか分からない自然災害に対応し、市民が安心して暮らしていくために、この度、各職員が山形県沖地震を振り返るとともに、市民の皆様から寄せられた貴重な声を記録として整理し、発行することといたしました。各分野における災害対応の生の声の記録による課題、反省点も踏まえ、災害時の体制や支援制度等の見直し、充実に努めてまいります。

結びに、本記録集の作成にあたり、経験談や資料の提供などにご協力を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

令和2年6月18日

鶴岡市長 皆川 治